

ヒアリング調査及び事前会議から得られたこと

ヒアリング調査から得られた意見

- ・基本的にはアカマツ、モミジなどの景観
- ・山頂までの尾根が見渡せる景観
- ・アカマツ林や人の手のかかる植生に戻すことは難しいため、自然に任せた手のかからない森林景観
- ・シイが優占する暗い森ではなく、明るい森としての景観

森林整備を行う上で
小倉山の重要な場所について

- ・森林整備をして効果の高い場所から実施していく、全体に広げていくことが望ましい。
- ・森林整備の効果の高い場所でまとまって整備をした方がインパクトがある。
- ・小倉山は観光社寺、保津川くだりなど観光としての特色が様々なので、整備を行う場合、少しずつ違う場所で実施して、将来的には全体が活性化することが望ましい。
- ・小倉山全体で事業を実施する場合は、資金が必要ではないか。
関係団体から協力金（寄付金）のようなものが集まれば資金的に幾分役立つと考えられるが、峰奥野の観光客も近年大きく減少していることから資金力があるかが課題にシカによる被害が著しい。寺院によってはフェンスなどを設しているが、1つの寺院だけで行つても隣接地からの被害がなくならない。自分のところだけ防ぐのではなく、関係者全員が連携して対策を図ることが必要。
- ・シイが成長し、小倉山の森林景観を損ねている。

寺院等が抱える課題について

- ・嵐山嵯峨野という地域のために利益を担保するという考え方が必要。そのためには関係団体が連携するとともに、全員を引っ張つていくりーダーが必要。
- ・小倉山の森林を感じてもらえるような散策路整備に期待する。また、散策路をつくるなど1つのきっかけがあれば、関係団体が連携しやすい。
- ・小倉山といつても広いのでエリア分け（部会など）をつくって、各宗派を超えた繋がりができる必要。
- ・そのためにもリーダーが不可欠。
- ・地元の人（恒家さんなど）が運営したボトムアップ形式の活性化が望ましい。
- ・学生（大学生など）を動員するなどの若い力も必要。
- ・特に小倉山に関わっている立命館や嵯峨芸術大学などが有效。
- ・子供たちへの教育（森林環境教育）という視点を入れ、教育委員会などと協力しながら、森づくりをしていく方法がある。
- ・散策路整備に繋がるようなモデル事業を行うことにより、整備意欲が地元で高まるのではないか。
- ・対象地ではない所有地でも、一体化した整備を行つてもよい。

事前会議から得られた意見

- ・アカマツ林景観の再生に関する思いは、各社寺とも強い。また、それを再生するところが難しいことは承知で再生する場所や維持管理体制を考える必要がある。
- ・抵抗性マツを植えるという考え方もあるが、小倉山に自生する元気なマツから苗木をとって育て、再生するということも重要。

- ・嵐山に近く整備効果が高いと考えられる場所から実施し、全体に広げていくことが望ましい。
- ・また、将来的には京都市の場所だけ整備しても小倉山全体が綺麗になつたとは思えない。私有地も含めて全体で森林整備を行っていくことが望ましい。

- ・京都市の事業として捉えると、整備範囲は限られるし、予算も続くとは考えられない。整備範囲外（自分達の土地など）は自分で何とか整備をしなければ、山全体がよくならない。そのためには財源も必要。
- ・シイが成長し、小倉山の森林景観が損なわっている。
- ・シカの被害が酷く、植栽を行つても食べられてしまう。シカ対策を何とかして欲しい。

協働による森づくりについて

- ・協働による森づくりをすすめるうえで、「森づくりに関わる人たちの思い」による、森林像や優先順位の検討を行う必要がある。
- ・地域連携による持続的な森づくり
- ・地元の人達が中心となつた組織づくりが必要。
- ・組織づくりにおいては、リーダー・調整役が必要である。
- ・組織の広がり・持続性（子供たちの参加等）に配慮した取組みを進める。

- ・うれしい×楽しい森づくり
- ・協働による森づくりを進めていくためには、インセンティブ（やりがい、経済的波及）のある協力者が報われる仕組みをつくる。

小倉山の森づくりのポイント

- アカマツ林の再生
 - ・アカマツ林の最適地において、アカマツ林の再生を目指す。
 - ・維持管理に当たり、地域の人たちが中心となる仕組み（体制づくり等）が必要である。
 - ・アカマツ林の再生方法（抵抗性マツ、苗木から育てた植栽など）を考える。
- 小倉山全体を見据えた森づくり
 - ・京都市所有林だけでなく、小倉山全体を改善していくことが必要である。
 - ・京都市の事業で着手した整備の場所をきっかけにして、協働による小倉山全体の森林再生に広げていくことが必要である。
- 財源の確保
 - ・継続的に事業を行うための財源の確保が必要。例えば、東山の場合は、サポート制度により、活動の趣旨に賛同する地域団体等から資金や労力の継続的な提供を得ている。
 - ・シイ林の林相改善
 - ・シイ林については、景観、防災的視点から、森林整備とともに、防風柵の設置や捕獲・くり戻なども含めた対策を検討する。
 - ・シカ害対策
 - ・森林整備とともに、防鹿柵の設置や捕獲・くり戻なども含めた対策を検討する。
- 散策路整備の継続的な検討
 - ・森林整備における散策路の位置づけ、課題、ルート選定等について、継続的に検討する。
 - ・愛着のある森づくり
 - ・協働による森づくりをすすめるうえで、「森づくりに関わる人たちの思い」による、森林像や優先順位の検討を行う必要がある。
 - ・地域連携による持続的な森づくり
 - ・地元の人達が中心となつた組織づくりが必要。
 - ・組織づくりにおいては、リーダー・調整役が必要である。
 - ・組織の広がり・持続性（子供たちの参加等）に配慮した取組みを進める。

第1回 小倉山の森林再生に向けた意見交換会(概要)

○日時 平成24年11月2日(金) 14:00~16:00
 ○場所 天龍寺 友雲庵
 ○進行 ○進行

- 開会挨拶 「小倉山森林再生事業」全体計画(案)について
 京都府都市計画局都市景観部風致保全課課長 難波 陽一郎
 京都府都市計画局都市景観部風致保全課課長補佐 杉田 美雄
- 質疑応答 「小倉山森林再生事業」全体計画(案)
- 概要 「小倉山森林再生事業」全体計画(案)
- 質疑応答
 - ・整備を行う予定箇所、エリアの抽出理由、整備の方向性など
 - ・シカの食害による森林被害が著しい小倉山に対する獣害対策の重要性
 - ・昭和40年代まで小倉山に広範囲に存在していたアカマツ林の再生など

○出席者 「小倉山森林再生事業」出席者

氏名	役職等	氏名	役職等
嵐山保勝会 事務理事	田中 克彦	大邊 明	井上 与一郎
大河内山莊庭園 園長	坂口 博翁	山本 芳男	吉田 英治
党勝院 生職(祇王寺 元住職)	吉田 克彦	長尾 憲佑	井上 与一郎
京都府市森林組合 組合長	井上 与一郎	天龍寺 宗勝院・「嵐峡の清流を守る会」会長	山本 芳男
京都府市森林組合 監事	天龍寺 宗勝院・「嵐峡の清流を守る会」会長	常寂光寺 住職	常寂光寺 住職
嵯峨自治会連合会 会長	天野 韶	二尊院 住職	天龍寺 宗勝院・「嵐峡の清流を守る会」会長
常寂光寺 住職	天野 韶	(オブザーバー)	(オブザーバー)
天龍寺 宗勝院・「嵐峡の清流を守る会」会長	安藤 健	森づくりアドバイザー (京都大学ファイルド科学教育研究センター 準教授)	安藤 信
二尊院 住職	高田 研一	森づくりアドバイザー (NPO法人 森林再生支援センター 常務理事)	高田 研一
(欠席者)	外山 武比古	林野庁京都大阪森林管理事務所 所長	森づくりアドバイザー (NPO法人 森林再生支援センター 常務理事)
あだし野念佛寺 会長	天野 和之	産業観光局林業振興課京の森づくり推進室長	瀧岡 忠雄 (代理出席)
嵐山保勝会 会長	秋丸 隆之	右京区役所地域力推進室まちづくり推進担当課長	天野 和之
	大東 忠彦	(欠席者)	藤井 那保子 (代理出席)
	石川 韶之介	天河内山莊庭園 園長	大邊 明
	(役職別50音順 敬称略)	二尊院 住職	羽生田 袂裕

(役職別50音順 敬称略)

第2回 小倉山の森林再生に向けた意見交換会(概要)

○日時 平成25年2月8日(金) 14:00~16:00
 ○場所 天龍寺 友雲庵
 ○進行 ○進行

1 開会挨拶	京都市都市計画局都市景観部風致保全課課長 難波 陽一郎
2 「小倉山の森林再生に向けた事業計画」について 京都市都市計画局都市景観部風致保全課課長補佐 杉田 英雄	「小倉山の森林再生に向けた事業計画」について 続的な森づくりによる持続的な森林づくりに向けた事業計画一地域連携による持続的な森づくりに向けた事業計画(案)について
3 質疑応答	(1) 全体計画 (2) 前期計画
4 地域連携による特徴的な森づくりについて 京都市都市計画局都市景観部風致保全課課長補佐 奥村 武也	京都市都市計画局都市景観部風致保全課課長補佐 杉田 英雄
5 質疑応答	「小倉山の森林再生に向けた事業計画」全体計画(修正案)、前期計画(案)についての説明
6 閉会挨拶	・小倉山の森林再生において、前回意見交換会において出された意見の反映 ・全体計画案について、前回意見交換会において出された意見の反映
○概要	・前回計画案の整備エリアの選定 など
○主な意見	・シカの食害対策の手法について ・アカマツ林の再生と共に、現在生育しているマツの保全の必要性 ・地域連携による森づくりの重要性 など
○出席者	○出席者

第3回 小倉山の森林再生に向けた意見交換会(概要)

○日時 平成25年3月26日(火) 14:00～16:00
○場所 天龍寺 友雲庵

○進行

1 開会挨拶

2 「小倉山の森林再生に向けた事業計画」について

(1) 全体計画

(2) 前期計画

3 質疑応答

4 閉会挨拶

○概要 「小倉山の森林再生に向けた事業計画」(最終案)についての説明

・最終案について、前回意見交換会において出された意見の反映
主な意見
・地域車両による散策路整備について、散策路ルート案が寺の境内地を通じ
ているので、現時点ではルート案を削除してほしい。

・整備するうえで必要な作業道等を通して場合は、市街地からの景観に配慮する必要がある。
など

○出席者

役職等	氏名
あだし野念佛寺 住職	大東 忠彦
嵐山保勝会 会長	石川 暢之介
嵐山保勝会 専務理事	田中 克彦
覚勝院 住職(祇王寺 元住職)	坂口 博翁
京都市森林組合 組合長	吉田 英治
京都市森林組合 監事	井上 与一郎
嵯峨自治会連合会 会長	山本 芳男
常寂光寺 住職	長尾 憲祐
天龍寺 宗務総長・「嵐峠の清流を守る会」会長	桙 承昭
(オブザーバー)	
森づくりアドバイザー(京都大学フィールド科学教育研究センター 津村教授)	安藤 信
森づくりアドバイザー(NPO法人 森林再生支援センター 常務理事)	高田 研一
林野庁京都大阪森林管理事務所 所長	外山 武比古
産業省光局林業振興課京の森づくり推進担当課長	天野 和之
右京区役所地域力推進室まちづくり推進課長	秋丸 隆之
(欠席者)	
大河内山莊庭園 園長	大邊 明
二尊院 住職	羽生田 敏裕

(役職別 50音順 敬称略)

【参考資料】

第1回 小倉山の森林再生に向けた意見交換会で出された意見

※ユーチュウ：新たに全体計画に反映した内容

()：反映した箇所

明細体：全体計画で既に取り込んでいるもの

の志も木の生長とともに育っていくという事業だと思う。もし、小

倉山を何とかしたいという機運が高まれば、10年間で15haが、場

合によっては10年間で30haもの面積が整備されるかもしない。

・整備は、色々なところに手を広げないで、概ね1.5～2haをモデル地域にして、アカマツ再生地域、シカの懲害対策などを、重点的に実施していく方がいいのではないかと思う。そして、こんなに輪廓になるのなら、広げていきたいという気持ちを高めていくのがよいのではないかと思う。また、事業をサポートする体制づくりも必要で

・何十年も掛るでしょうが、麓のところから始めていかれるというこ

とにおいても非常に歓迎すべきことである。

・植樹などすれば、3年間は下草刈りなどの管理に人手やお金がかか

るが、維持管理も見据えた事業量であり、全体計画であることが必

要である。(P12 ポイント1 アカマツ林の再生)

●アカマツ林の再生

・マツの再生は、かなり強度に手入れしなければ難しい、施業面積を徐々に広げていくためには、手を入れるところ手を入れないところを決めて、手、施業に強弱を付け、柔軟に対応していくべきである。(P12 ポイ

ント1 アカマツ林の再生)

・アカマツ再生地の上層を覆う樹木の回復や切り株の萌芽に対応した整備後の維持管理が重要である。

・手入れの程度も比較的スムーズにいくのではないか。施工時に対する評価

・マツの再生は、継続的な管理の必要性を踏まえて、試験的に実施していけばいいのか。(P12 ポイント1 アカマツ林の再生)

・残されたマツというのは、ある程度抵抗性があると思うので、その場所で試験的にアカマツ林の再生を行つてもいいのではないか。(P12 ポイント1 アカマツ林の再生、P13 景観形成ゾーン1 整備エリア② 具体的な目標とする森林像)

・今残っているマツを大切にしていく必要があるのではないかと思います。そのためには、現状何本残っているかを把握することが必要である。(要調査)

・ある母樹を薬剤注入してまで保全するという考え方もあるのではないか。(P12 ポイント1 アカマツ林の再生、P13 景観形成ゾーン1 整備エリア② 具体的な目標とする森林像)また、それだけに依存すると枯れると次に繋がらないので、整備して手入れするところに抵抗性マツの植栽や直播で種を撒く(P12 ポイント1 アカマツ林の再生)など検討してはどうか。

・まず、アカマツを何とかやつてこようという方向で京都市がされることは我々としては一番歓迎すべきことである。そのためには、地域の皆もボランティアなどで何とかマツを守るという視点で取り組んでいかなければならぬと思う。今後どのようにするかは、やりながら考えていけばいいと思う。

●小倉山全体を見据えた森づくり

・アカマツの再生についても、地域の人たちなどのかしたいという気持ちは大事だと思う。つまり、木を育していくとともに、人とのつながりが大事だと思う。つまり、木を育していくとともに、人とのつながりが大事だと思う。

要である。

・地元の小学校の生徒さんに懲害で山がこんななっていると危機的な状況を理解してもらいたい、そのためには駆除が必要とわかつてももらうことが大事ではないか。そういう理解が大人でも大事だと思う。

・薬の量から判断して、100haで50頭ベースのシカが生息している可能があると予想でき、過剰密度のシカが生息していると考えられる。

・くり罠は経験が必要で、どういう仕掛け方をするか、シカを誘引するためにどういぐ罠をつけるかなど少しお話が必要であるが、当面はプロの力を借りてでも少し減らしてみて、将来的には地域の人々がくくり罠の免許を取り、地元主体で取組むことが理想だと思う。

●地域連携による持続的な森林景観づくり

・小倉山ではインバクトの強いところを整備するということでしたので、市民にもどういう事業をしているかということを伝えることも大切である。

・昔は道がついていて誰でも歩きました。今はどこに道があつたのかわからぬ状態で入ることもできない状態となっています。まずは道をつけて置いて、何とか皆で協力できることころはしていきたいと思う。また、小学生、中学生などにも協力頂きながらやっていきたいと思う。

●マツ枯れ・ナラ枯れ対策

・ナラ枯れが単木であるところはそれはほど光条件がよくなれないが、何本もナラ枯れがまとまって見られる場所は、光条件がよいため、植栽しなくとも天然更新されるかもしれない(P12 ポイント2 ナラ枯れ(コナラ林)対策、P14 景観形成ゾーン1 整備エリア④、⑤ 景観形成ゾーン2、3 整備エリア⑥、⑦ 具体的な目標とする森林像、P16 斜面防災配慮ゾーン2 整備エリア⑨ 具体的な目標とする森林像)し、シカ対策保護壁はしていかなければならぬ。

・マツ枯れについては、行政の所管地にとらわれず一體的な被害対策が必要である。

●シカ害対策

・駆除対策に対するメンテナンスは専門的なものがやつていいがいい、ボランティアでは厳しいのはないか。

・防護柵を設けて森林を再生するエリアとシカが来てても仕方がないエリアなど、重点的にするとこどろと力を抜くところの温度差をつけるといった色々な方法を検討することが必要である。

・根気よく追っ払うことも必要と思うが、小倉山全体となると中々広くてできないというのが現状である。

・シカは、狩猟の対象にもならない。地域のコンセンサスも含めた有効活用策が必要である。

・実際に狩猟を行われる場合は、より具体的な計画を立てることが必要

第2回 小倉山の森林再生に向けた意見交換会で出された意見

※コラム：新たに事業計画に反映した内容

（）：反映した箇所

明朝体：事業計画で既に取り込んでいるもの

●シカ害対策について

- 防鹿柵（網）を設置すると2～3日もしないうちにシカがかかるかもしれません。かかったシカは、免許をもった新友好会のメンバーにお願いしなければなりません。その辺の連携やかかった際の網の再生のフォロー（P12 ポイント5 シカによる森林被害への対策）などしっかりと体制を整えないといけない。
- ネットの場合は色が黄色で目立って仕方がないし、シカが引っ掛かりやすいし、それを確認のため巡回するのは大変です。**題目の間隔ですが4cmの細かいのはすごく高い。金網みたいのものを使った方が安くなると思います。短期的には費用が少しかかるかもしませんが、長持ちするのでトータルコストとしては安くなると思います。（P12 ポイント5 シカによる森林被害への対策）それにスカートなどをつければノシシも入れないのでないかと思います。**
- シカの食害から森をつくるために、最低限の木を守るバッチティフェンス、大きく曲りソーンディフェンスという方法がある。**バッチティフェンスがなぜ効果があるかというと、小さいので、檻に入ることからシカも入りががらない。フェンスと違って、檻の中に相当魅力のある檻がない限り入りません。**
- 私は10年間で300ほどバッチティフェンスをつくってきて、京都市では、7.5m×7.5m、7.5m×10mといった非常に小さいバッチティフェンスを活用しています。もちろん必要な木を育てるだけの大きさでも見えますので、シカは引っ掛けたことはありません。**これまで全国で300ほど設置したバッチティフェンスで1回だけ引っ掛かったことがあります。つまり、これまでのフェンス型の大規模フェンスに比べてはるかに引っ掛かる可能性は少ないと言えます。**
- もう1つはシイの成長が激しいので伐採後の萌芽枝を数年間だけさめの柵にするところをカネもキツネも入れないので、中でネズミが大繁殖したというケースもあります。皆がバランスよく生きていけたらいいという考え方を京都では大切にしたいなと思っています。
- 京都市の林業振興課でたくさん柵を設置していただきて、その中で苗木も育てきているということをご理解いただけたらよろしいかと思います。
- マツを守れという考えですが、生きているマツを先に守るべきだという考え方もあるのですね。特に2009年に小倉山の10番の整備エリアを歩きました。見上げたらマツグミが生えてました。マツグミというものは相当すごいものでマツグミが生えているだけでマツが枯れない。何でそのようなことが起こるのか京大の先生方や樹木医会でも詰題になっていたのですが、保津川からの川霧が発生してマツグミ自体が粘り気のある種子をつくることから、適当な湿り気がなかつたら粘り気も発生しないので、川霧が関係して、あそこにあると思います。
- とにかく不思議なことにマツ枯れが起こらない。それであそこのマツが大事かと思って、薬剤注入などするとマツグミへの影響がどれぐらいいであるのか心配である。

●維持管理について

- 維持管理について、皆で手伝ったらしいことが多いといえますが、手伝える内容と手伝えない内容とがあります。
- イロハモミジは、植栽される樹種の中で一番強いですね。耐陰性が強く、枯れません。サクラなどもまだましまかどだと思います。伐採したあとに出てくるコシアラなどは光がないと駄目ですし、アカマツも当然弱い。
- 小倉山においては、2番の整備エリアのところですが、ゾヨゴ、ネジキ、リヨウブあたりの林にしていくと思うのですが、マツの再生には3年以上かかり、その間に明るくするために灌木を一度切らなければなりません。
- 1番の整備エリアの林のシイを伐採してもシイの萌芽力というのは大変なものですね。光条件がよければ1年間に1～2mも伸びてしまう。切り株からの萌芽は2～3年間は切る（P12 ポイント3 コジイ林の林相改善、P27 地域活動組織と市の役割分担）などして管理してやらなければ、折角植栽した苗木が枯れてしまうなど、後々大変なことがあります。
- そのため、残す、切る木の管理をしていかなければならぬと思います。例えば、2番の整備エリアのマツ林でいえば3年か4年に1回は手入れするなどしていかなければなりません。（P12 ポイント1 アカマツ林の再生、P27 地域活動組織と市の役割分担）こればほほかというと、伐採で残したゾヨゴ、リヨウブが切ったときにはそれはどちらもなかつたものが、林冠を覆ってしまうスピードが速いため、数年に1回は上の木も切つてやるなどの作業が必要となってくると思います。
- もう1つはシイの成長が激しいので伐採後の萌芽枝を数年間だけ地中に残してやること（P12 ポイント3 コジイ林の林相改善、P27 地域活動組織と市の役割分担）が必要だと思います。
- つまり、やりっぱなしだけではなく、管理してやることが大切で管理の段階でも今後手間がかかるない作業を早めにしてやることが必要だとということです。
- 3mぐらいのシイの若木が生えているところを一昨年切ったのですが、下からの萌芽とともにに戻ってしまいました。しかも1本だったので、複数本生えてきて株立ち状に成長したのでよいかどうなりました。

●協働による森づくり、地域連携による持続的な森づくりについて

・アカマツ林の再生には、地元主体の組織づくりが必要であるということであるが、そのためには興味をもって参加をしてもらわなければならぬということですね。

お寺に来られた交野市の方は、市の協力を得て、市所有地の竹林を市民参加型で整備しておられるそうです。また、寺では境内地内の竹林から出た竹を使って竹炭をつくりています。小倉山の3番の整備エリアの竹林においても毎年整備していくなければならないことがありますので、市民の方々に竹林管理に参加してもらうであれば、笠置づくりのように何か興味をもつてもらえるようなきっかけづくりをしなければならない（P27 年次計画と地域活動分担）と思っていきます。

後々には、興味を持った分野で何か組織ができるかもしれません。

・去年のシンポジウムで常寂光寺さんがあるミニミジと大きいミニジの話をされたと思ったのですが、そういうミニミジの特性を活かして 小倉山ミニジなどといつてアピール（P27 年次計画と地域活動分担）

・明治、大正にかけて小倉山の高さから考えて、生活の山であったと考えています。何故かというと、マツを植えることによって、燃料、油など生活の必需品として利用されていたからだと思います。

そこで、これから小倉山をどのように管理していくかというと、見る山なのが生活の山のかどという観点を入れていただきたいと思います。つまり、かつては生活がそこにあったので維持管理がおこなわれた山に自然にマツが生えていたのだと思います。そのため、小倉山の景観を考えるうえでマツがいいのかといふことをもう一度直す必要があります。要するに見る山なのが生活の山なのかどうかということを考えることにより、管理の方法も出てくると思いまます。生活の山であったならば、必ず管理をしていきます。しかし、見る山でしたら管理をするには費用がかかる。その費用はどういうにして捻りしていくのかともあわせて考えていかないと、山は役所が手を入れた以降も維持管理など続いているのかといふことが課題です。

役所としては、今は繪麗にするのであとは、地域のほうでお願いしますといわれても、地域の方でもそこで管理がやつていけるのかといふことを考えていった方が、小倉山でのこういった活動が続いていくのではないかと思います。（P27 地域活動組織と市の役割分担）

・京都市で小倉山の再生事業をやろうということを、やはり地元としても協力体制をつくっていかなければならぬということも事実で

あります。ただ、先立つものもない、組織をどうやってつくっていくのか、2年や3年で終わるのではなく、何十年も続くといふ時間の問題もありますので、そういうものを考えた組織といふものを地元としては作っていましたがいいのではないかと思います。

役所の方も 10 年で終わり、あとは地元でなんとかしてくれといわれるものも困るので、将来においても少し管理のようなことをしてもらえては助かるので、地元としても組織ができやすくなるのではないかと思います。（P27 地域活動組織と市の役割分担）

・地元どしましては、走りは道をつけてもらわなければ今、山に入れません。地域でボランティアを募って、小学校、中学校、高等学校などに呼びかけて、学校も地域と一緒に取り組んでいきたい

（P26 地域ぐるみによる森づくり）と校長先生等も皆おっしゃっていますので、とりあえず道をつけてもらいたい。そうすれば、道沿いの下草も刈れますが、また、アカマツを植えるのでしたら植えっぱなしもいけません。

授業の一環として地域と共に行政に協力してやつていきたいと思っています。

・私がまず手をついたのが林野庁が管理している山で、次が川です。3年前に悪臭がひどかった川を地元の人と組織をつくりながら清掃活動をやっています。山については地域密着型の山で、皆に山に入つてもらおうということで取り組んでいます。嵐山国有林での活動と一緒にして頑張つていけたらと思っています。

●財源確保について

・森づくりは、本来は長い時間かけて作り上げていくものなので、寺だけではなくするには人もお金も厳しいところです。

今回は全体の予算の中から維持管理費を捻出するのは難しいと思いますが、何か京都市の方で、システムのようなものができないものでしょうか。別の面からでもいいのですが、何かそういうシステムができて、結果的には山が綺麗になつていく方法がないのでしょうか。

例えば、間伐を行った場合は、森林組合さんがこれだけ持つておられますなどというような頑張った人達に対する支給があります。

（P26 地域ぐるみによる森づくり）などはできないものでしょうか。

・生活の山か見る山なのかと言われたどおり、生活の山ならば、京都市の市有林をつかって、柴を売るや木材を売るなどの仕組み、これは中々難しい。それよりも公益性を求める点では、災害に強くて美しい山というのが現実的ではあるだろうと思います。だけどもつたい

ないのは、小倉山の山頂にはいひノキ林があり、おそらくあと200

年もおいておいたら、現在価値にしたら 3000 万も 4000 万円もある木へと育つことは間違いないかもしれません。

本当は森というのは 300 年も 500 年もかけてくるのが当たり前で、それを人がいる程度見守つていかなければなりません。その 300 年、500 年という時間の中、息子や孫に、その大切な気持ちを引き継いでいかなければなりません。それを誰が引き継いでいくのかといふことは作っていましたがいいのです。お寺さんは住職が個人では難しく、お寺さんだとと思うのです。お寺さんは住職が亡くなつても、次の新しい住職が受け継ぎ、その思いが必ず継承されていくからです。つまり、本当の価値のある森づくりをしていくにはお寺さんの役割は非常に大きいのです。

例えば、お寺さんに 200 本の木を渡すから年間何度か森づくりに携わるかなというインセンティブです。コストや労力に負担がかかる

のなら、適切でないかもしれません、インセンティブとは見返りです。1,2 の整備エリアの地域で大河内山莊さんから常寂光寺さんの間の路を繪麗にするもの常寂光寺さんもえらい迷惑で、掃き掃除もしなければならないし、何らかの負担をかけてしまいます。そういうときにインセンティブがあれば、気持ちよく仕事ができ、山に入つて何かしようかという気持ちになると思います。

●役割分担について

・

（P26 地域ぐるみによる森づくり）の中でお寺さんの存在は大事で、京都の三山でお寺さんを抜いたら山なんか考えられませんので、よろしくお願いしたいと思っております。

・

（P26 地域ぐるみによる森づくり）の中でお寺さんに対する支給があります。

あとがき

現在、当意見交換会に御参加いただいた方々を中心に、小倉山における自主的な森づくり活動組織が立ち上げられています。

本市においては、当組織の立ち上げを支援をするとともに、協働による持続的な森林景観づくりに積極的に取り組んで参ります。

なお、本事業計画の中では、以下の点については具体的な取り組み方針・内容等を示しています。
が、当組織とともに、継続的に検討していくこととします。

- ・小倉山全体の森林景観づくりについて
- ・地域連携の仕組みづくりについて
- ・散策路の検討について
- ・森づくり活動におけるインセンティブ（やりがい、経済的波及）について
- ・森づくり活動の実施について
- ・将来的な根本的懸念対策の実施について
- ・など

今後、小倉山における市民の方々による自主的な森づくり活動の取組をとおして、活動に関わる組織運営や活動を支える人材育成の在り方などを検証していくことにより、森林景観づくりの輪が三山全体に広がっていきための仕組みをオール京都で構築していくとともに、植樹イベントの開催や本事業の進捗状況を広く発信することで、全市的な森林景観づくりの機運を高めていきます。

小倉山の森林再生に向けた事業計画

—地域連携による持続的な森林景観づくりを目指して—

平成25年4月発行

発行・編集

京都市都市計画局都市景観部風致保全課

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る
上本能寺前町488番地

電話 (075)222-3475

京都市印刷物 第253015号

